

# 卒業生からみたコロナ禍における 短期大学教育に対する評価とは —2020-2021年度短期大学卒業生調査結果比較—

○堺 完・○宮里 翔大・山崎 慎一・黄 海玉

(大分大学, 桜美林大学, 桜美林大学, 一般財団法人大学・短期大学  
基準協会)

部会7 大学運営・評価  
2022年6月5日@岡山理科大学

# 発表の流れ

1. 問題の所在
2. 方法
3. 結果
4. 考察と課題

# 問題の所在

## ●コロナ禍による学修環境の変化

- 対面授業実施の制限、オンライン授業の増加
- 多くの大学でオンライン授業（同時双方型／オンデマンド型）を中心に、それらに対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業を展開

## ●オンライン授業が増えたことへの学生の評価

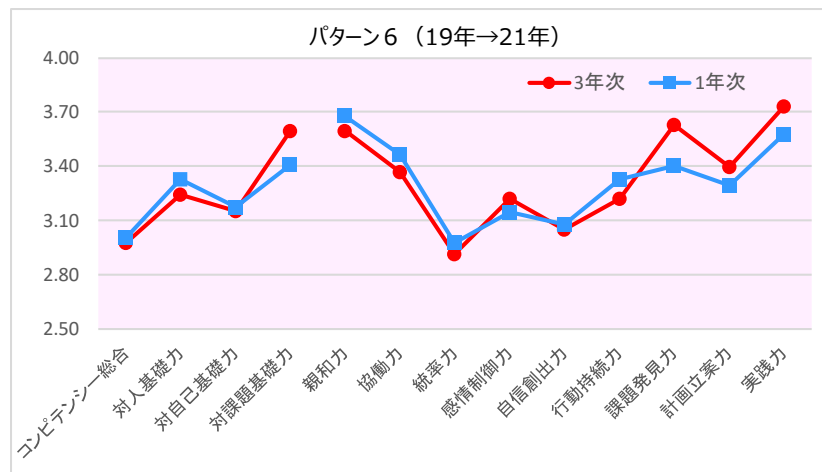
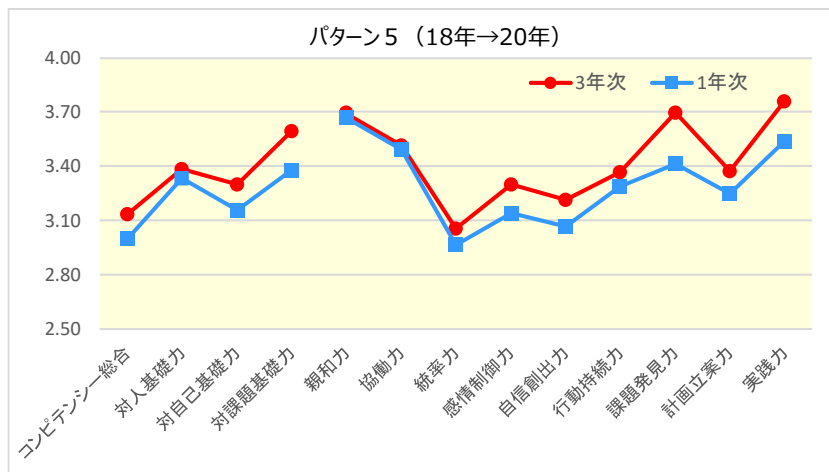
- 多くの大学で学生に対してオンライン授業の良かった点や改善点などを聞き取り（アンケート）
- オンライン教育のメリットを感じつつも、質問等双方向のやりとりが少ない、友人など人との関わりが少ない等不満や課題が明らかに

# コロナ禍による学修成果への影響

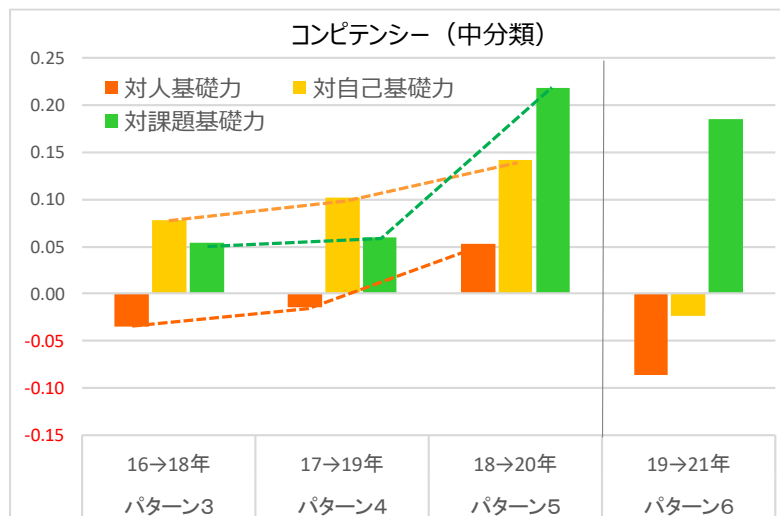
- コロナ禍で変化した学修環境が学生にもたらした成長や成果、充実度、満足度等への影響は？
- 大学IRコンソーシアム（2021）
- 教学比較IRコモンズ（2020,2021）
- 全国大学生生活協同組合連合会（2020,2021）
- リアセック・河合塾PROGテスト（2022）

# PROGテスト結果に見るコロナの影響

## ● 経年で見えるコンピテンシースコアの変化



## ● コンピテンシースコアの変化量 (3年次スコアと1年次スコアの差) の推移



# 本発表の目的

- コロナ禍による学生の学修成果等への影響について、各種調査結果より確認
    - 課題対応に関連した能力はコロナ禍でも上昇（あまり影響を受けていない）
    - しかし、対人関連などの能力については行動活動制限の影響が見られる
  - ◎ 他の高等教育機関においても同様の状況が見られるか（学修成果を示す設問において）
  - ◎ 卒業生を対象とした検討は十分に行われていない状況
- ⇒ 短期大学卒業生調査結果をもとに比較検討

# 短期大学卒業生調査実施概要

## 【調査目的】

- ・短期大学で教育を受けた卒業生に対して、短期大学の満足度や学習成果、短期大学への要望などを尋ね、教育成果の可視化に関する情報を得る

## 【調査対象】

- ・大学・短期大学基準協会会員校全体に参加募集をかけ、調査を希望した短期大学  
(会員校 2020年度:268校,2021年度:262校)
- ・参加校の卒業生で、①調査実施時点で、卒業後1年目、卒業後3年目、卒業後5年目、②卒業時点で就職先や進路先が決まっていた者

## 【調査方法】 web調査

- ・各校の卒業生に調査依頼文書を送付、文書に記載のQRコードを読み取って調査専用のウェブページにアクセスして回答

## 【実施時期】

- ・7月末～9月上旬の約1か月間

参加状況		2020	2021
参加短期大学数		45	50
調査依頼数		9560	12136
有効回答数		1948	2340
回答率		20.3%	19.3%
(内訳) 卒業 年数	卒業1年目	1169	1371
	卒業3年目	462	592
	卒業5年目	290	353
	その他	27	24

# 設問内容

Q.	短大／回答者ID	Q.	現在のキャリア
Q.	性別	Q.	現在の就職先
Q.	最終学歴	Q.	現在の雇用形態
Q.	短大に対する総合評価	Q.	在学時に取得した免許資格の活用
Q.	短大教育の学修成果	Q.	卒業後の短大との関わり
Q.	短大推奨度	Q.	短大への卒業後の支援・要望
Q.	卒業直後のキャリア	Q.	<u>短大で学んでよかったこと*</u>
Q.	卒業直業の就職先	Q.	<u>短期大学でもっと学びたかったこと／改善してほしいこと*</u>
Q.	卒業直業の雇用形態	Q.	<u>短大の後輩へのアドバイス*</u>
Q.	卒業直業の勤続年数		* 自由記述

※調査集計結果については大学・短期大学基準協会ホームページ>「組織概要」>「刊行物書籍・資料・報告書等」に掲載しているのでそちらを参照

(<https://www.jaca.or.jp/service/other/research/sotsugyouseichosa/report/>)

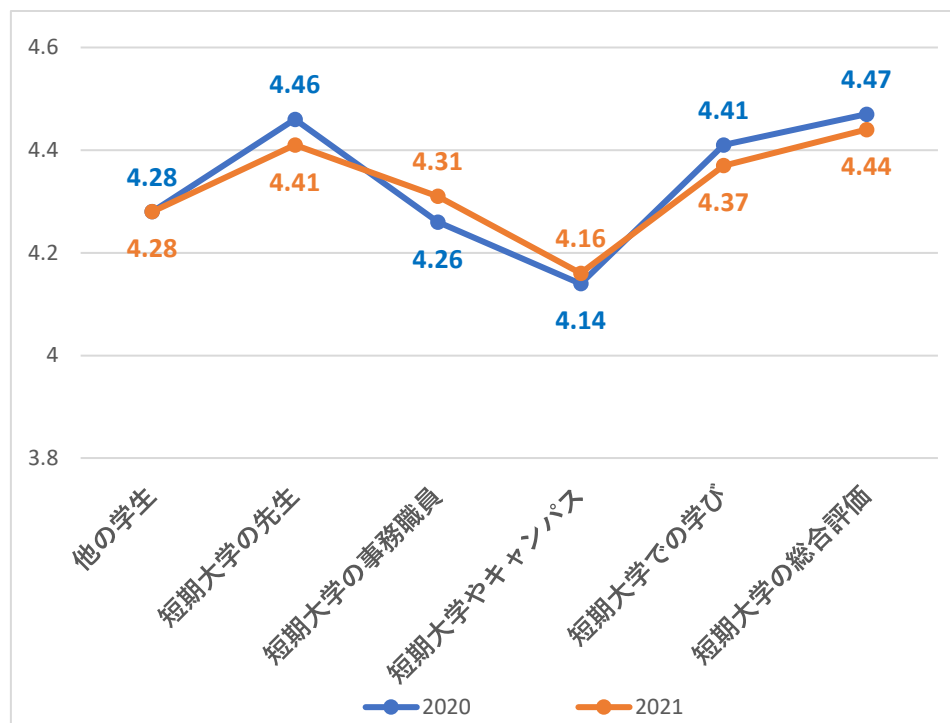




# 結果（短期大学教育の総合評価）

- 短期大学教育に対する総合評価について「肯定的（5）」～「否定的（1）」の5件法で回答

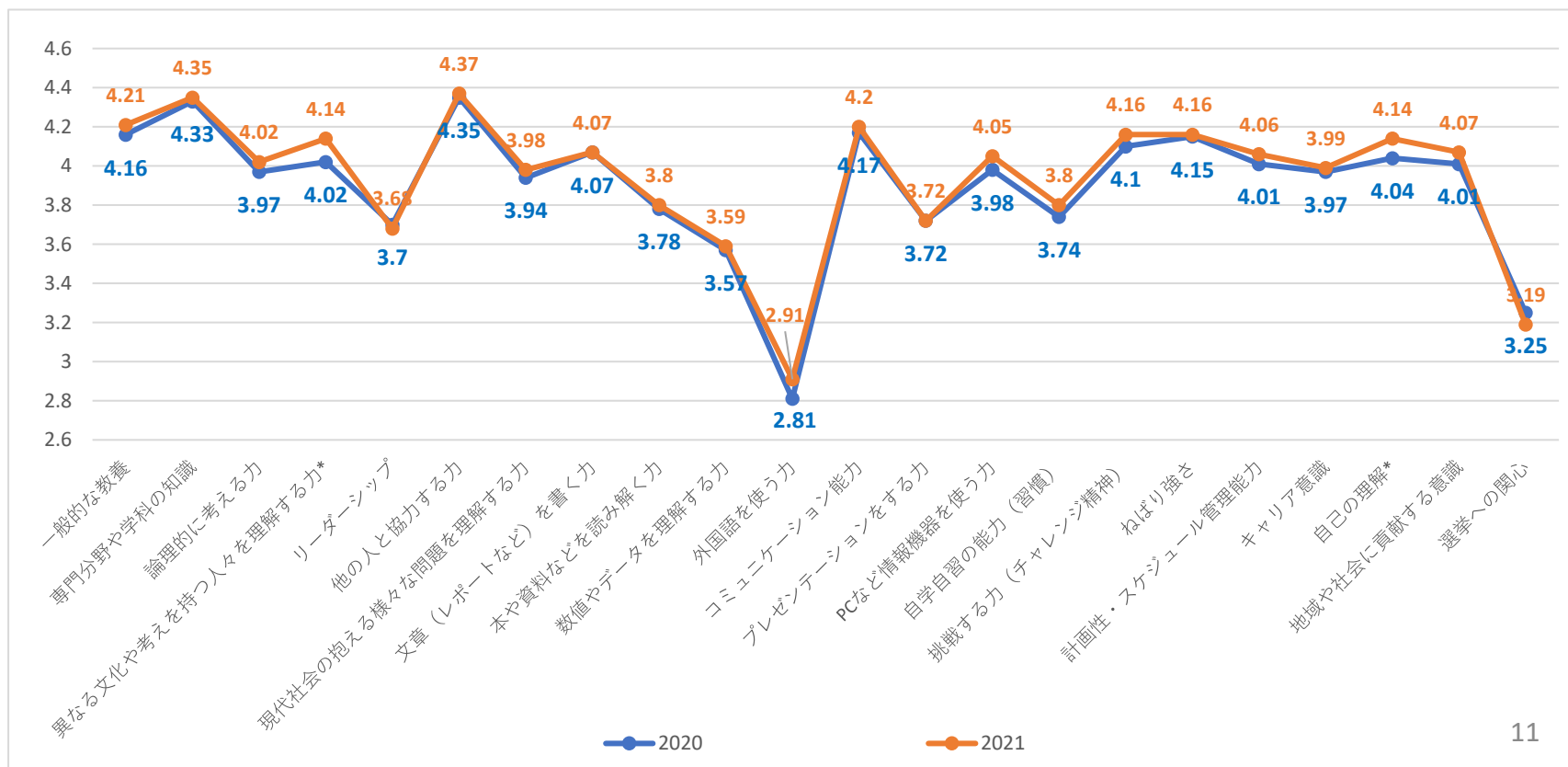
➤全体的に短期大学に対する総合満足度は高い。「短期大学の先生」「短期大学での学び」「短期大学の総合評価」の3つが2021年度の方が平均値が低いが、年度による差は確認されず（ $t$ 検定）。



# 結果（短期大学教育の役立ち度）

●短期大学で学んだことが「役に立った（5）」～「役に立たなかった（1）」の五件法で回答

➤ほとんどの項目で年度で平均値に差はなく、有意差も認められず。一部の項目で2021年度の平均値の方が0.1ポイント以上高く、有意差を確認（*t*検定）。



# 考察①

- 卒業生調査2020（卒後1年目）の結果を見る限り、短期大学教育の学修成果等はコロナの影響を受けていない？
    - 2年生だった1年間、オンライン授業や学校外での実習の中止や延期など、かなり制限のかかった中で教育を受けていると予想されるが...
    - 可能性として、短期大学の特徴である小規模・少人数教育が行われた結果、規模の大きい4年制大学のようにそこまで対面授業や学外での実習に制限をかけずに、コロナ禍前と同様の教育を展開できていた？
- ⇒自由記述設問で「コロナ」関連の記述を確認（選択肢設問から把握できないコロナ禍による教育への影響が書かれているか？）

# 自由記述から見るコロナの影響

- ①「短大で学んでよかったこと」、②「短期大学でもっと学びたかったこと／改善してほしいこと」、③「短大の後輩へのアドバイス」の3つの自由記述内に「コロナ」という表現が何件あるか？

	卒業生調査2020 (N=770)		卒業生調査2021 (N=825)	
	記述数	「コロナ」記述数	記述数	「コロナ」記述数
①学んでよかったこと	457	0	525	2
②学びたかったこと等	205	0	241	11
③後輩へのアドバイス	323	9	334	14

# 具体的な記述内容は？（要約）

## 【卒業生調査2020】

### ③ 後輩へのアドバイス

- コロナの影響で大変だと思いますが、頑張ってください。
- コロナウイルスがまん延して就職や実習など大変でしょうが頑張って下さい。

⇒ほとんどが後輩である在学生への応援

## 【卒業生調査2021】

### ① 学んでよかったこと

- 実習など実践に関わる授業は良かったが、コロナの影響で受けれていないものもあり残念だった。

### ② もっと学びたかったこと等

- コロナによって大学に行けて授業を受けられなかったことが今でも悔しく思います。
- 新型コロナウイルス蔓延により、ほぼオンライン授業になったことやキャンパスの施設も利用できなくなったり、自分の学んだことが身に付いたのから不安だった。

## 【卒業生調査2021】

### ② もっと学びたかったこと等 つづき

- コロナの関係で一部の授業で実施されなかった内容があり、もっと学びたかった。
- コロナ禍で学内外の行事や施設実習がなくなり、色々な人たちに関わる機会が減ってしまった。

### ③ 後輩へのアドバイス

- コロナ禍で遠隔授業になってしまうことが多いと思いますが、しっかりと授業を受けることで将来役に立つので頑張ってください。
- コロナで実習の実施も難しい中ですが、どうか自分に悔いのないように勉強に励んでください。
- コロナ禍ですが、できる限り地域ボランティアに参加したり、様々な人との関わりを大切にしてください。

⇒①～③から、在学時代の様子を振り返り、コロナ禍の制限のある中、十分な教育を受けられなかったという想いや現在の職業経験を踏まえて、人と関わる機会や実践する機会が奪われていたことへの無念さが表れている

## 考察②

- 「コロナ」に関連した記述は卒業生調査2020回答者にはほとんどなかったが、2021回答者には複数の記載内容があった。
- 考察①で確認したように、量的設問の結果を見る限りコロナ禍の影響はないと思える
- しかし、特に教育に対する不満や改善要求の自由記述内容を勘案すると、コロナによる教育上の制限（実習等の実践機会の損失）や成長実感への不安などが見受けられた
- 在学生・卒業生に対してどのような支援ができるのかを検討する材料に活用できる可能性？

# 今後の課題

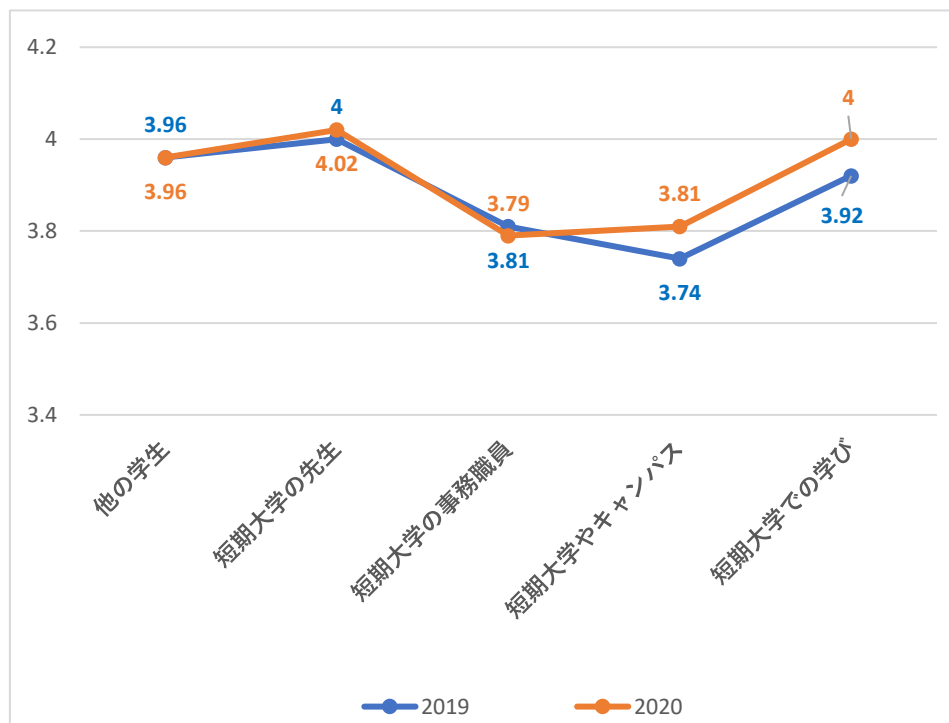
- コロナ禍で2年間で過ごした卒業生との結果比較  
⇒2年間影響を受けた学生の方が満足度等が低下するのか？
- 量的調査では見えない部分を探るために、ヒアリングが必要（特にコロナ禍の2020-2021の卒業生）
- 短期大学生調査（在学生調査）との比較  
⇒同じ集団が在学時点と卒業後で短期大学教育に対する評価はどのように変化するのか。



# 引用・参考文献

- 大学IRコンソーシアム「コロナ禍の学生生活や習得能力への影響についての報告書」(2021)  
[https://irnw.jp/images/20210916\\_%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8v12\\_HP%E7%94%A8.pdf](https://irnw.jp/images/20210916_%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8v12_HP%E7%94%A8.pdf)
- FNNプライムオンライン編集部「コロナ禍で“協働力”“統率力”が大学生で低下...社会に出た後にどう影響?上げる方法を聞いた」(2022)  
<https://www.fnn.jp/articles/-/328774>
- 教学比較IRコモンズ「ALCS学修行動比較調査結果梗概2021」(2021)  
<https://cmpir.jp/site/alcs1.php#summ>
- 文部科学省「教学マネジメント指針」(2020)  
[https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt\\_daigakuc03-000004749\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_002.pdf)
- 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査(結果)」(2021)  
[https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)
- リアセック「コンピテンシーの伸長に対するコロナの影響について」(2020)
- 曾和利光「恐れていた事実が調査で判明「コロナ禍で学生の能力が下がってしまった!」」キャリアコネニュース コラム 曾和利光の「採用担当者があなたの会社を魅力的にする」(2022)  
<https://news.careerconnection.jp/column/131257/>
- 全国大学生生活協同組合連合会「第57回学生生活実態調査概要報告」(2022)  
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>

# (参考) TDSC2019-2020 (卒業生2021回答 16校のみ)総合満足度の全体平均の比較



# (参考) TDSC2019-2020 (卒業生2021回答 16校のみ)学修成果の全体平均の比較

